

大分教育事務所訪問 53

大分市立西の台小学校から学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「夢と希望に向かって『邁進』する西の台っ子の育成」を達成するために、めざす子ども像「考える子」「創り出す子」「やりぬく子」として、「あいさつ」「安全」「新しいことに挑戦」の3つの「あ」を合い言葉に取り組んでいます。とりわけ、本年度は開校31年目、新たな10年のリ・スタートの年として、これまでの取り組みを年度途中であっても見直し、改善を図っています。



NO.254 2021年9月 西の台小学校

わかる喜び

自分が発見したり、わかったことはだれかに伝えたい。そして、伝えた相手も一緒に喜んでくれる。

例をあげると、1学期末単元末テストの結果から、2学期からの目標を中位層の2割引き上げとするなどエビデンスに基づいた改革を行っています。また、より機能的な組織運営を行うために、5つあった部会を4部会に再編し、部会によっては（トップは主任ですが）機動的なリーダーを副主任とする等を改善を図っています。

このような改革が行えるのは、各主任によるミドルアップマネジメントに加え、校長先生の理念を校内通信として発行して、全ての職員に「何のために行うのか」を周知しているからだと思いました。

今後は、協議の際に確認した、人権教育を基盤とし「記述する力、説明する力」等、学校として育成を目指す資質・能力をより明確にする

ことで、教職員や保護者・地域の方との共通理解がより推進されると思いました。教職員や学校関係者の上位目標の理解がすすむと、方法は担当者に任せることができ、それぞれの当事者意識がより高まると思いました。

授業から学ぶ

3年生国語の、漢字のへんとつくりを、ロイロノートを活用しパズルのようにして学んでいました。へんとつくりが自由に動かすことができるので、子ども達は、安心して繰り返し挑戦でき、次第に問題のレベルも上がるので子どもの意欲も高まっていました。



2年生外国語活動（学校裁量）は、テンポのある流れと、挙手や起立など動きを入れることで全員が楽しく学んでいました。さらに、繰り返し行うことで、子ども達は見通しを持つことができ、意欲的に参加していました。

お二人は、まさに「新しいことに挑戦」しており、そのような教師の姿をみた子ども達は、これから多くのことにチャレンジすることでしょう。

今後は、「振り返り」において、子ども達がどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」にして明記することで、「ねらい」との連動や評価規準がより明確になり、確かな学力がより育成されると思いました。



NO.253 2021年9月 西の台小学校

挑戦したくなる

最初は簡単。少しずつ難しくなる。何度でもやり直しができる。できたらほめてくれる。成長を感じる。だから、明日も挑戦したくなる。



NO.252 2021年9月 西の台小学校

新しいことに挑戦

困ったときには、助けてくれる先生や友達がいる。そんな安全な教室だから、新たなことに挑戦できる。